

# 展示&トーク 福島原発事故14年展

～この国の姿を問う～

2025年3月28日(金)～4月3日(木)

毎日10:00～18:00

@かながわ県民センター 1階展示場

入場  
無料

JR横浜駅  
西口・きた西口  
から徒歩5分

東京電力福島第一原発事故から14年。

未曾有の被害の修復も、事故収束の目途も立たない中、国は原発を最大限に活用するという回帰政策に大きく舵を切っています。

あの惨事を二度と繰り返させまいと闘い続けてきた被害者、これを支えてきた私たちは、災害が多発する現在、この間に何を見てきたのか。

浮かび上がるこの国の姿をどう捉え、今後をどう考えたらいいのか…。

8年、10年の節目に続き、写真、資料パネル、ミニ講演・トークなどを交え、市民の目線で考える展示・集会を開きます。

## 展示

さまざまな角度から「フクシマ」を見つめ直します

豊田直巳写真展～消される風景、消えない放射能

事故直後と十数年後の対比からみる被災地の姿を展示

危機の時代に浮かび上がるこの国の姿

原発事故などなかったかのように、再稼働に突き進む国の政策  
被害者救済は？危機管理は？

かながわ訴訟11年の歩み

横浜地裁、東京高裁、そして最高裁上告・・・  
浮き彫りになった司法の現状と問題点

山内若菜作品展示

「神々の船 トリニティ」ほか

豊田直巳写真展より→

(上：2011.3.22 下：2023.1.14 撮影  
双葉町公民館・体育館と街の原発推進PR看板)



## トーク

初日から最終日までほぼ毎日開催！朗読や対談も！

スケジュール詳細は裏面をご覧ください



3月28日(金)

三原由起子さん(歌人)

声を束ねて～短歌作品から語り合うふくしま～



3月29日(土)&30日(日)

山内若菜さん(画家)

被ばくした動物の声・核なき世界へむけて希望を放つ

ギャラリートーク

3月29日(土)

荒井六貴さん(東京新聞記者)

～記者の目が見つめてきた福島～

3月30日(日)

さざれ石学生英語ガイド  
ボランティアのみなさん

こどもたちによる朗読

詩文集「ひまわりの丘 福島の子どもたちとともに」



3月30日(日)

豊田直巳さん(フォトジャーナリスト)

復興は本当に進んでいるのか…消される風景から考える



4月1日(火)&3日(木)

村田弘さん

(福島原発かながわ訴訟原告団長)

1日：どうなっている原発裁判 3日：危うい裁判所

3月31日(月)

避難者の声

ミニ  
トーク

主催：「福島原発事故14年展」実行委員会

お問合せ：090-2143-7348 (錦織) / 090-1205-4062 (藤岡)

共催：記憶の継承を進める神奈川の会 / 福島原発かながわ訴訟原告団 / 福島原発かながわ訴訟を支援する会  
後援(順不同)：東京新聞横浜支局、毎日新聞横浜支局、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)、



Fm yokohama 84.7、神奈川人権センター

協賛：週刊金曜日





ライブイベント  
スケジュール  
こちらも無料です!

開催中毎日、  
クイズラリーを実施!  
(全問正解の方には  
景品プレゼント)

3月28日 (金)	①11:00~12:00 ②14:00~15:00	三原由起子さん(歌人) 「声を束ねて~短歌作品から語り合うふくしま~」
3月29日 (土)	13:00~14:00	山内若菜さん(画家) 「被爆した動物の声・核なき世界へむけて希望を放つ 『神々の草原 トリニティ』『神々の草原 黒い雨』『死産』から」
	14:00~16:00	荒井六貴さん(東京新聞記者) 「記者の目が見つめてきた福島」
3月30日 (日)	11:00~12:00	さざれ石学生英語ガイドボランティアのみなさん 詩画集『ひまわりの丘 福島の子もたちとともに』
	13:00~14:00	山内若菜さん(画家) 「被爆した動物の声・核なき世界へむけて希望を放つ 『神々の草原 トリニティ』『神々の草原 黒い雨』『死産』から」
	14:00~16:00	豊田直巳さん(フォトジャーナリスト) 「復興は本当に進んでいるのか・・・消される風景から考える」
3月31日 (月)	14:00~16:00	避難者の声 
4月1日 (火)	14:00~16:00	村田弘さん(福島原発かながわ訴訟原告団長) 「どうなっている原発裁判~全体状況を見る」
4月2日 (水)	ライブイベントはありません	
4月3日 (木)	14:00~16:00	村田弘さん(福島原発かながわ訴訟原告団長) 「危うい裁判所~司法の現状と私たちへの影響」

### 出演者のみなさん(出演順)

#### 三原由起子さん(歌人)

1979年福島県双葉郡浪江町生まれ。1995年より恩師の勧めで作歌をはじめ。同年、福島県文学賞短歌部門青少年奨励賞受賞。1997年、第1回全国高校詩歌コンクール短歌部門優秀賞受賞。2001年、第44回短歌研究新人賞候補となる。高校時代からの17年間に作りためた歌を第1歌集『ふるさとは赤』(本阿弥書店/2013年)で発表。同年、第24回歌壇賞候補。現在、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与。近著に『土地に呼ばれる』(本阿弥書店/2022年)がある。

#### 山内若菜さん(画家)

1977年神奈川県生まれ。東日本大震災後の2013年より、福島県内の被ばくした牧場での取材を開始する。2016年&2021年原爆の丸木美術館(埼玉)で個展。2016年から中学校、高校、大学などでいのちの授業・展示講演会開催。2017年ロシア国立極東美術館(ハバロフスク)で個展。2021年東山魁夷記念日経日本画大賞展入選。2022年平塚市美術館常設展特別出品。2024年 旧日銀広島支店個展、第五福竜丸展示館個展。著書に『いのちの絵から学ぶ』(彩流社)など。

#### 荒井六貴さん(東京新聞記者)

東京新聞社会部。現在、原発取材班キャップをつとめる。長年書き続けてきた原発関連記事は多くの読者から高い評価を得ている。

#### さざれ石学生英語ガイドボランティア

2018年結成した大磯町内の学生(小中高大学生)を中心に活動するボランティアグループ。大磯町海外姉妹都市留学生との交流から、澤田美喜記念館の英語ガイドを始め、2021年コロナ禍以降、SDGsを学び、「中村哲医師・ベシヤフル会」写真展開催、海岸清掃へ活動を広げる。2023年から「福島第一原発事故被害」の避難者支援活動を始め、福島の子もたちの声を届ける詩の朗読に取り組む。

#### 豊田直巳さん(フォトジャーナリスト)

フォトジャーナリスト、ドキュメンタリー映像監督、日本ビジュアルジャーナリスト協会会員。産経児童出版文化賞大賞、平和・協同ジャーナリスト基金賞 奨励賞。著作に『福島を生きる凜ちゃんの10年』(農文協)、『フォト・ルポルタージュ 福島人なき「復興」の10年』(岩波書店)、『フクシマ元年』(毎日新聞社)『イラク 爆撃と占領の日々』(岩波書店)『パレスチナの子供たち』(第三書館) 他多数。映画に『サマシヨール』(2020年)、『奪われた村』(2016年)『遺言~原発さえなければ』(2013年)。

#### 村田弘さん(福島原発かながわ訴訟原告団長)

1942年神奈川県生まれ。2003年に朝日新聞社を定年退職後、南相馬市小高区に帰郷。約2,000坪の果樹園跡地を耕し、百姓の真似事を続けて8年目に原発事故が発生し横浜市に避難。神奈川県への避難者が2013年横浜地裁に起こした「かながわ訴訟」の原告団長として法廷闘争に取り組む。横浜地裁では国の責任を認める判決を得たが、東京高裁で逆転敗訴。現在、最高裁に上告中。原発事故被害者訴訟原告団全国連絡会共同代表、被害者団体連絡会幹事も務め、住宅追い出し訴訟や被ばく訴訟などの支援にも奔走している。

未曾有の事故を経験した日本を生きる私たちのこれからを、  
そして子どもたちの未来を考えるヒントがたくさん詰まった企画です。  
是非お立ち寄りください。

# 福島原発事故14年展

